

2019年6月29日 ~ 2019年7月5日

2019年7月9日

先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに上昇しました。トルコの2年国債金利は低下しました。

先週は、G20首脳会合後に米国による経済制裁懸念が後退したことにより、市場のリスクセンチメントが改善しました。トルコ・リラは週初から対米ドル・対円とも上昇し、その後横ばい圏で推移しました。6月のCPI（消費者物価指数）でインフレ率の鈍化が確認されたことにより、国債金利は低下しました。

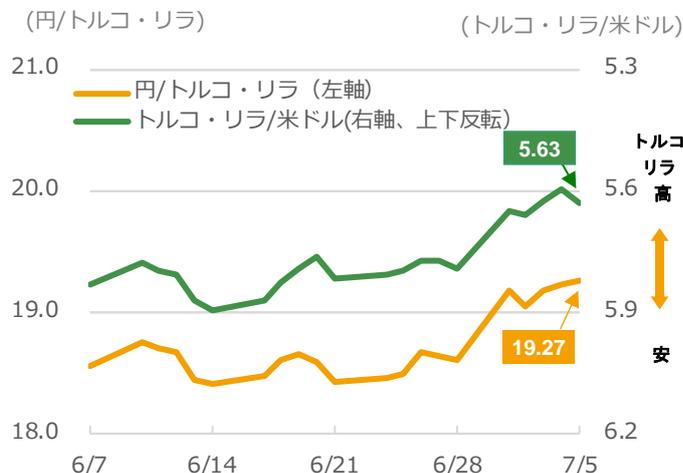
7月6日（現地）、エルドアン大統領は突如トルコ中央銀行のチェティンカヤ総裁を解任したことを公表しました。後任はウイサル副総裁が昇格しました。

今週の見通し

米国からの経済制裁懸念が後退したのも束の間、エルドアン大統領がトルコ中央銀行総裁を解任したことで、今週のトルコ・リラ相場は下落して始まりました。エルドアン大統領はかねてから、金利が高止まりしているとして頻りに中央銀行を批判していましたが、突然の解任劇で中央銀行の独立性への懸念が再度強まりました。インフレ率の鈍化により利下げ余地が拡大したとはいえ、政治による金融緩和圧力が懸念されやすく、今週のトルコ・リラは上値の重い展開となりそうです。

トルコ・リラ 為替推移

(2019年6月7日~2019年7月5日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

トルコ 金利推移

(2019年6月7日~2019年7月5日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。